

図書館における情報リテラシー教育の高大連携

University-High School Collaboration of Information Literacy Education at the Library

学籍番号：201621600

氏名：榎本 翔

Sho ENOMOTO

近年、大学生には情報リテラシーの習得を求められるようになり、大学図書館は様々な背景を持つ大学生に対し情報リテラシー教育を実施するようになった。大学図書館が効果的な情報リテラシー教育を実施するために、大学生が大学入学前に在籍する高等学校との連携が不可欠である。しかし、日本の大学図書館における情報リテラシー教育と高大連携について、事例報告は僅かに存在するが、事例報告間の共通点や特徴について比較研究がなされていない。また、事例報告に挙がっていない大多数の図書館がどのような実態にあるのか明らかになっていない。本研究では、日本の大学図書館における情報リテラシー教育及び高大連携の実態について明らかにすることを目的とする。

調査は質的調査と量的調査を組み合わせで行う。初めに、大学図書館が学校図書館に対してどのような情報リテラシー教育の高大連携を行っているのか、先行研究や事例報告等が豊富にある海外の文献を調査することで実態を明らかにする。次に、文献調査で得られた情報を元にインタビューガイドを作成し、国内で高大連携に取り組んでいると考えられる大学の図書館員に対し、半構造化面接手法による質的調査を実施する。最後に、文献調査とインタビュー調査による質的調査の結果を元に、情報リテラシー教育と高大連携の全国的な実態を知るため全国の大学を対象に標本調査による量的調査を実施する。

調査の結果、日本の大学図書館における情報リテラシー教育及び高大連携の実態は、国外の事例と比べると高大連携に対する認識や実施する環境の違い等から課題が多く見られた。国内の先進事例から大学附属高等学校と高大連携を行っていることを前提に、大学の設置区分や規模により取り組み方や運営の違いが見られた。全国的には過去の調査と比べて情報リテラシー教育の実施状況は改善されているが、大学全体との高大連携はオープンキャンパスの参画に留まっており、大学図書館単体で高校生に対してサービスを提供しているという実態が明らかになった。

研究指導教員：逸村 裕

副研究指導教員：緑川 信之